

# 国宝・閑谷学校の魅力を改めて発見し直す

## 閑谷学校展実行委員会

### 活動の目的

「閑谷学校」の建築空間やランドスケープを、現代の技術によって捉え直し、その成果を展覧会という形で、多くの方々（特に地元・岡山県の方々）に見ていただくこと。

主に建築関係者や建築専攻の学生を対象とした知見の共有や意見交換。

### 活動の内容及び経過

2016年の5月末と11月半ばの2度、公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会の許可・協力を得て、「閑谷学校」の講堂を中心とした撮影を実行。同校は岡山県備前市に建つ現存する最古の学校建築で、1701年建造の講堂は国宝に指定されている。

2017年1月、岡山市での展覧会開催のため、御財団に助成を申請。6月「国宝・閑谷学校写真展 | 岡山展」の開催概要を決定。会場は岡山市北区石関町の「CCCSCD by cifaka」。アクセスがよく、かつ閑谷学校の建造を指揮した津田永忠が手がけた後楽園を対岸に望む場所で、今回のテーマにふさわしいと考えた。また、運営するオーナーやスタッフの方々の深い理解や賛同も大変ありがたいものであった。

WebやSNS、チラシによる広報。チラシはデザイナーの秋山伸氏に依頼し、郵送する上での機能性を踏まえながらも目を引く特徴的な形状のものを制作していただいた。御財団により、2,400枚以上へ配布。

計100カット以上の写真から、会場の広さ、壁の長さを考慮し、15点を選出し、A2サイズのパネル制作。ミリ単位でレイアウトも構想。同時に制作していた写真集『国宝・閑谷学校 | Timeless Landscapes 1』に収録の写真とは若干異なる組み合わせとした。幾度かラボとの調整を繰り返した末、写真作品が完成。

### 活動の成果・効果

2017年7月8日～8月6日の約1カ月間、「国宝・閑谷学校写真展 | 岡山展」を開催。

会場の、内装仕上げが剥がされた粗いコンクリートの壁に、古建築の写真が整然と並び、現代と300年前、動と静の対比による会場の空間は独特の雰囲気を生み出していた。運営の方々も、日常とは違う光景に感心されていた。お客さんも特別な空気を感じていただけたのではないかと。

初日には『山陽新聞』の記者が来られ、丁寧な取材を受ける（カラーページが使えるタイミングで出したいとのことで、結果、展覧会期終了直前の8月2日朝刊に記事掲載）。

取材終了後、17時半から同会場にて写真家小川重雄によ



るレクチャーを開催。東京、大阪、広島など、県外からのお客さんもあり、計40名ほどが参加。内容は、閑谷学校の撮影秘話や、15年ほど前にフィルムで撮影した時の写真との比較、日本建築を撮影する際の手法などをスライドとともに紹介。

レクチャー後のオープニングパーティは、県内で活動されている建築関係者をはじめ、県外の方、学生など老若男女交流の場となった。地元の食材を使った軽食を準備していただき、会場に華を添えてくださった。1カ月間の会期で約1,500人が来場。7月末からは完成したばかりの写真集も販売していただいた。

SNS上では、遠方より閑谷学校を訪れてから展覧会へ足を運ぶ方、会場周辺の後楽園、岡山市民会館（設計：佐藤武夫）、林原美術館（設計：前川國男）などと合わせて訪れる方も散見された。本展が旅行や散策の契機になっていたように思われた。

### 今後の課題と問題点

初日以外で感想やご意見を伺う機会が少なかったことは悔やまれる。現地滞在を2日間しか設けることができず、その後の直接的な反応を得られなかった。

また、初日に学生は数名来場していたが、もっと増えても良いのではないかと思われた。学生の主要な関心とは異種のテーマだったと思われる。

- 代表者：富井雄太郎 ●所在地：東京都
- TEL：03-5848-9183 ●E-MAIL：yutarotomii@gmail.com
- 設立年：2016年 ●メンバー数：4名